

「中央訓練に参加して」

茨城地方協力本部

予備1等陸尉 鴨志田 武人（平成18年12月15日予備自衛官採用）

平成26年度予備自衛官中央訓練に全国から60名の仲間が集い予備自衛官制度創設60周年という節目の年に参加することが出来ました。北海道と関東で勤務しました私にとって皆さんと訓練出来ることは楽しく充実したものとなりました。

朝霞駐屯地において着隊行事等を、主として富士演習場と市ヶ谷駐屯地で訓練を行い、全て私にとって練武の地であり懐かしく感動的なものとなりました。

富士演習場への移動は大型トラックで東名高速道路を走り、総合火力展示演習（夜間射撃を含む。）を研修した。いつもながら短節で素晴らしい射撃指揮と命中精度、変わらぬ力強さと信頼感に予備自衛官として誇りを感じます。

市街地戦闘訓練場において、この招集訓練担任部隊である第34普通科連隊によるバトラーを使用した撃滅訓練を行いました。市街地における近接戦闘は神経の消耗戦であるが、訓練指導をした中堅陸曹の指導力には、今直ぐにでも実戦下に入れる緊張感と緊迫感を大いに与えられ六感を刺激しました。この夜、状況下で仮眠と言うことで一夜を過ごしたが、寝具を使用しない隊員がいたので聞いてみたら「一晩ぐらいなら着の身着のままで大丈夫です。」との答えが返ってきて頼もしい限りです。また、「補」の隊員の質の高さに感心しました。私は、募集広報担当官として当時「補」は立ち行くのかと考えていました。しかしながら訓練し話をしてみると「自衛官でいることが好きな人達だ。」と感じ大いに安心しました。従来の予備自衛官の方々に心から尊敬をしていました。「この人達も信頼出来る。」と心強く感じ、5年・10年後この人達の特技に応じた訓練により、自分の職場と相まって自衛隊でも良い仕事をしてくれると信じます。

富士キャンプ及び陸幕での米軍予備役との交流は有益で、水陸両用車の研修及びブリーフィングでの質疑応答は予備役の在り方・訓練及び予備自衛官らしく報酬に至まで質問し、同席した米軍予備役のサブまで解説に当たり、通訳も汗だくで時間をオーバーする大変なものでした。

陸幕計画行事では記念式典において岩田清文陸上幕僚長から式辞があり我々予備自衛官に要望事項が、内閣総理大臣から寄稿文も寄せられました。長年の労苦に体し永年勤続者表彰及び予備自衛官決意の辞等もあり良いものでした。省内敷地に60周年記念植樹としてユズリハの木（子の成長の後を譲る目出度い木）を植樹しました。

懇親会においては防衛大臣も遠路から参加され、大いに盛り上がりました。特に隊歌演習で予備自衛官歌「光かざして」をステージに溢れんばかりの人が上り中央訓練を大いに謳歌いたしました。関係者の方々に心からお礼申し上げます。

「志望動機について」

茨城地方協力本部

予備陸士長 渋谷 周 （平成26年9月15日予備自衛官採用）
（航空自衛隊出身）

志望動機

会社員をやって、様々な国々を回る機会を経て日本人の考える当たり前と同じように国の数だけ考え方の違いがあることに気が付きました。日本人が良く考える「沈黙は美德」とは、ほぼ日本でしか通用しないこと、そして、海外の人にとっての日本は、真偽のほどは別として声の大きい人の言っていることが真実となっている事実を知ってしまいました。海外の出来事に対し、聞こえた情報に疑問を持つことが少ない（気にしない）ことを巧みに利用している事実が世界では当たり前でした。色々と自分で調べた結果、生活環境や利便性について総合的に見た場合、日本の素晴らしさを知りました。この良い日本が万が一の際に、何もできない自分が居たとしたらとても悔しいことと考え、自分の住む国と家族を守るため志望しました。

今後は、予備自衛官に出来ることは限られていますが、可能な限り様々な事案に対処できるようになりたいと考えています。

一部の恐怖に打ち勝つことも必要と考えています。

1. 柵の中恐怖症（ハンコを押印してもらった日々）
2. ラッパ恐怖症（シフト勤務者泣かせの平日限定でおこなわれる非常呼集さらに隔週実施のおまけつき。）

上記2項目は改善の余地ありの項目と考えています。

上記は、負のイメージにとられるかもしれませんが、全般的に社会で役立ついい経験だったと思います。そして、市街地における不測事態に対する対応能力の向上が必要と考えています。数十年のブランクを感じさせるメタボ身体と戦うとともに、万一の時には動ける精神と肉体の維持をすることによって、国と家族を守ることができると考えています。